

財団法人 武田科学振興財団
「2010年度 ビジヨナリーリサーチ助成」募集要領

(財)武田科学振興財団においては、下記の通り「2010年度 ビジヨナリーリサーチ助成」の募集を行っております。

記

1. 対象

我が国の医学分野の進歩・発展に貢献する将来に向けて夢のある斬新でチャレンジングな研究を対象とします。新しい原理の発展や斬新な着想に基づく研究で、成功した場合には卓越した成果が期待できるもの

2. 応募資格

国内の大学医学部および大学の医学系研究部門またはその他の医学系研究機関に所属する研究者

* 応募者の留意事項

当財団では複数の助成プログラムを実施しています。応募にあたっては、全ての助成プログラムを通して、同一年度1研究者1件としております。

3. 金額および件数

1件200万円 20件

4. 応募方法

「ビジヨナリーリサーチ助成申込の留意事項」および「FAQ」を熟読のうえ、申込書一式に必要な事項を記入し、当財団に送付ください。

* 応募書類はビジヨナリーリサーチ助成申込書を3部、研究要旨および論文を2部提出ください(コピー可)。また、送付の封筒表面に「ビジヨナリーリサーチ」と記入ください。

応募締切：2010年4月9日(金) 必着

5. 継続助成

2012年3月時点までに成果として評価でき、さらなる発展が期待できる研究に関しては2012年度から新たに開始する「ビジヨナリーリサーチ継続助成」申込書に基づき審査(もしくは口頭審査)のうえ1件500万円、5件以内の継続助成金を贈呈します。さらに2014年3月時点で成果の進捗が期待できる研究には、1件1,000万円、5件以内を審査のうえ贈呈します。またさらに2016年3月時点でより成果が期待できる研究には、1件3,000万円以内、5件以内を審査のうえ贈呈します。

6. 選考方法

当財団に設置する選考委員会にて選考します。

選考結果は、2010年8月下旬までに事務局から各応募者に通知します。

7. 贈呈方法

所属される機関の所定方法に従い贈呈します。

なお、2010年11月に贈呈式を予定しております。

8. 本件に関するお問い合わせ先

〒532-8686 大阪市淀川区十三本町2-17-85

財団法人 武田科学振興財団 研究助成事務局

TEL(06)6301-4309 FAX(06)6300-6034 E-mail:info@takeda-sci.or.jp

以上

「2010年度 ビジヨナリーリサーチ助成」申込の留意事項

申込に際しては募集要領およびFAQを熟読のうえ、下記留意事項に従ってお申込みください。応募用紙はダウンロードしてお使いください。

1. 応募用紙は「2010年度ビジヨナリーリサーチ助成申込書」と別紙「研究要旨」の2様式から成っております。各項目に従って記入ください。

本助成は夢の実現を目指した発想を高く評価する助成です。

- (1) 氏名・所属機関・部科・職位・所属機関住所・郵便番号・電話番号・FAX番号・E-mailについては、連絡をさせていただき必要上、正確に記入ください。

- (2) 「研究要旨 No. 1」に応募研究に対する『夢』の展開や思い入れを記載ください。
『夢』が実現すればどんな新しい診断法、治療法、原理等が見いだせるのかを記載ください。

- (3) 「研究要旨 No. 2」には夢を実現するにあたっての具体的な研究内容を記載ください。
(研究の背景、斬新性・チャレンジ性、研究計画・方法など)

- (4) 応募者の論文1篇を添付ください。(研究課題との関連の有無は問いません。)

2. 応募書類は申込書3部、研究要旨および論文は2部提出ください(コピー可)。
また、送付の封筒表面に「ビジヨナリーリサーチ」と記入ください。

応募締切：2010年4月9日(金) 必着

3. 助成金をお受けになった研究者には、後に下記のことをお願いしますので、その旨お含みのうえ応募ください。

- (1) 2012年3月末までに研究経過または研究成果(公表論文)の報告を願うこととしております。研究途中の場合は経過概要を原稿用紙3~4枚程度にお纏めのうえ報告ください。

- (2) 研究発表された場合には別冊を一部当財団宛に送付いただくようお願いします。
なお、ご研究の発表に際しては、当財団からの助成を受けた旨の記載をお願いします。
(財団英文名:Takeda Science Foundation)

4. 助成金は、対象研究に直接関係ある費用に限って使用ください。また、助成金は施設での受入および管理を原則としております。

5. 応募内容は秘密を厳守し、本選考以外には使用しませんが、提出いただいた書類は返却しません。また、贈呈者に関する情報(氏名、所属、研究課題、金額)は、一般公開しますので、予め了承ください。

以上

財団法人 武田科学振興財団
「2010年度 研究会等の開催支援」募集要領

(財)武田科学振興財団においては、下記の通り「2010年度 研究会等の開催支援」の募集を行っております。

記

1. 対象

生命科学分野、特に疾病の予防・診断・治療等の研究目的のために国内で開催される小規模な研究会等を対象とします。

(2010年10月～2011年12月に開催される研究会等を対象とします。)

*本助成は、小規模ながら斬新な研究テーマをもとに開催される研究会等への支援を目的としております。

(日本製薬団体連合会取り扱い学会等は対象外とします。)

2. 応募資格

上記対象に該当する研究会等を主催する国内の研究者

*応募の留意事項

(1) 企業が関係する研究会等の応募は遠慮ください。

(2) 国際学会、国際シンポジウム等の応募は遠慮ください。

3. 金額および件数

1件100万円 20件

4. 応募方法

「研究会等開催への支援申込の留意事項」およびFAQを熟読のうえ、申込書に必要事項を記入し、当財団に送付ください。

*応募書類は研究会等開催への支援申込書、会の規約、企画書および運営資金計画書等を2部提出ください(コピー可)。また、送付の封筒表面に「研究会等支援」と記入ください。

応募締切：2010年4月9日(金) 必着

5. 選考方法

当財団に設置する選考委員会にて選考します。

選考結果は、2010年8月下旬までに事務局から各応募者に通知します。

6. 贈呈方法

助成金は、研究会等の所定方法に従い贈呈します。

なお、2010年11月に贈呈式を予定しております。

7. 本件に関するお問い合わせ先

〒532-8686 大阪市淀川区十三本町2-17-85

財団法人 武田科学振興財団 研究助成事務局

TEL (06) 6301-4309 FAX (06) 6300-6034 E-mail: info@takeda-sci.or.jp

以上

「2010年度 研究会等の開催支援」申込の留意事項

申込に際しては募集要領およびFAQを熟読のうえ、下記留意事項に従ってお申込みください。応募用紙はダウンロードしてお使いください。

1. 「2010年度 研究会等の開催支援申込書」に必要事項を記入のうえ、提出ください。
 - 1) 氏名・所属機関・部科・職位・所属機関住所・郵便番号・電話番号・FAX番号・E-mailについては、連絡をさせていただき必要上、正確に記入ください。
 - 2) 申込研究会等に関する会の規約、企画書、運営資金計画書等を添付ください。
2. 応募書類は2部提出ください(コピー可)。また、送付の封筒表面に「研究会支援」と記入ください。

応募締切：2010年4月9日(金) 必着

3. 支援金をお受けになった研究者は、開催後、実施報告をお願いします。
(プログラム、抄録集等を送付いただければ結構です。)
4. 応募内容は秘密を厳守し、本選考以外には使用しません。提出いただいた書類は返却しません。また、贈呈者に関する情報(氏名、所属、研究会名、金額)は一般公開しますので、予め了承ください。

以上

F A Q (研究助成)

【応募について】

- 1 . Q : 同一年度複数の応募はできますか？ (医学系研究奨励と生命科学助成など)
A : 全ての助成プログラムを通して、同一年度 1 研究者 1 件としております。

- 2 . Q : 臨床試験、自主研究のテーマで応募できますか？
A : 応募は可能ですが、企業の支援等を受けている研究は遠慮ください。

- 3 . Q : 過去に応募し選考されなかったテーマで、本年度応募できますか？
A : 応募できます。

- 4 . Q : 昨年度に研究助成贈呈対象となった研究者が所属する科から、別の研究者が本年度に応募することはできますか？
A : 贈呈対象となった研究および類似のテーマでの応募は遠慮ください。昨年の贈呈対象研究と異なった研究内容・テーマについては応募できます。

- 5 . Q : 現在留学中ですが、海外からの応募はできますか？
A : 遠慮ください。
本年度中に日本に帰国し国内で研究されるケースなど応募いただける場合もありますので当財団事務局に相談ください。

- 6 . Q : 「高等学校理科教育振興奨励」の応募資格について、高等学校教員およびそれに準ずる教育機関の職員とありますが、教育センターの理科担当 (指導主事など) は応募することができますか？
A : 応募できます。

- 7 . Q : 本年度の研究助成に応募したいと考えています。応募書類は何部必要でしょうか
A : 応募書類は申込書を 3 部、研究要旨・論文を 2 部提出ください (コピー可) 。

- 8 . Q : 特定研究助成で 1 機関とは大学、センター、研究所夫々 1 件と考えていいでしょうか？
A : 大学として 1 件です。推薦者 所属機関長 は総長・学長とお考えください。

9 . Q : 特定研究助成の応募資格で、研究機関が総力をあげて取り組む共同研究とありますが、1 研究室での応募は可能でしょうか？

A : 学内または複数研究機関の融合研究を考えております。例えば、同一大学内での基礎教室と臨床教室の共同研究、複数大学の共同研究、大学と関連機関での共同研究などを想定しています。

10 . Q : 工学部に所属し、生命科学領域における基礎研究に携わっていますが、医学系研究奨励に応募することができますか？

A : 医学・歯学・薬学系研究者を除いた生命科学研究者を対象にライフサイエンス研究奨励の募集をしております。是非、ライフサイエンス研究奨励に応募ください。

11 . Q : 医学部に所属していますが生命科学研究助成に応募することができますか？

A : 応募できます。

12 . Q : 医学部に所属していますがライフサイエンス研究奨励に応募できますか？

A : ライフサイエンス研究奨励は医・歯・薬学部卒業の方は遠慮ください。
また所属施設が医・歯・薬学系の方は遠慮ください。

13 . Q : 歯学部に所属していますが、個人としてどのプログラムに応募できますか？

A : 個人としては、生命科学研究助成、医学系研究奨励のいずれかに応募できます。

14 . Q : 武田科学振興財団 HP の研究助成に報彰基金の応募の記載がありませんが？

A : 報彰基金は、事業実施期間を 1999 年事業年度から 2008 年事業年度の 10 年間として実施してまいりました。2008 年度で終了いたしました。
生活習慣病関連の基礎研究及び臨床研究は、医学系研究奨励 生活習慣病 に応募ください。

【推薦者について】

1 . Q : 大学教授ですが、誰に推薦してもらえばよいでしょうか？

A : 大学教授の所属長は組織によって異なりますが、研究所長、研究科長、学部長、学長などと考えております。

2 . Q : 准教授ですが、誰に推薦してもらえばよいでしょうか？

A : 所属する講座の長である教授に推薦してもらってください。講師、助手、医員の方も同様に教授に推薦してもらってください。

- 3 . Q : 1 推薦者が推薦できる候補は 1 件のみですか？
A : 1 助成プログラムに 1 件のみの推薦としております。
各プログラム 1 件の推薦は可能です。
- 4 . Q : 応募申込者が教授で年齢等の応募条件を満たす場合、自薦は可能ですか？
A : 自薦は遠慮ください。
(特定研究助成では、機関長自らが、自薦することは出来ません。)
- 5 . Q : 教授が研究科長、学部長、研究所長、病院長などを兼務している場合は、2 件の候補者を推薦できますか？
A : 1 助成プログラムに 1 件のみの推薦とさせていただきます。
2 件以上推薦された場合は、受付順位の早い候補 1 件を受付ます。
- 6 . Q : 医学系研究奨励の生活習慣病、精神疾患・脳疾患、基礎、臨床分野のそれぞれに推薦することは可能ですか？
A : 医学系研究奨励として 1 助成プログラムと考えていますので 4 分野のなかで 1 件しか推薦できません。

【記載内容等について】

- 1 . Q : 所属の記載は大学院医学系研究科でいいですか？
A : 大学院医学研究科代謝内科学、消化器外科学など詳細に記載ください。
推薦者の所属も同様に詳細に記載ください。
- 2 . Q : 医学系研究奨励では研究要旨の記載は 5 ページ以内となっておりますが 6 ページになってもいいですか？
A : 5 ページ以内を遵守ください。
- 3 . Q : 主な共同研究者は記載する必要がありますか？
A : 必要な場合のみ記載ください。但し、特定研究助成では記載は必須です。

【研究費について】

- 1 . Q : 所属施設では 10% の間接経費を徴収されるので、研究費を個人で受け取れませんか？
A : 施設に受入ルールがある先は全て施設での受入となります。

2 . Q : 現在、大学病院に所属して留学中です。収支報告に海外での研究費用が含まれてもいいですか？

A : 海外での研究費用も含み研究費の用途は自由です。ただし、施設のルールに則っていること、対象研究の研究費用であることが条件です。

3 . Q : 他大学に転出することになりましたが、助成金を移すことは可能でしょうか？

A : 現在在籍している大学のルールに従って対応ください。移された場合は当財団に報告をお願いします。

4 . Q : 奨励金の支出は研究成果を報告する 2012 年 3 月末までに完了する必要がありますか？

A : 2012 年 3 月末までに使い切る必要はありません。研究終了時点まで使用できます。

5 . Q : 特定研究助成の助成金は機関として管理する必要がありますか？

A : 応募申込代表者の機関で受入および管理いただき、収支報告書の提出をお願いします。

6 . Q : 助成金を人件費に使用することは可能でしょうか？

A : 財団では用途を制限しておりません。対象研究に限ったの使用と施設のルールに則って使用ください。

【報告につて】

1 . Q : 採択された場合は 2012 年 3 月までに研究経過または研究成果の報告することになっておりますが規定の様式がありますか？

A : 様式はありません。既に論文が掲載されている場合は別冊またはコピーを送付ください。

2 . Q : 研究成果の報告は論文を送付するということでもいいのでしょうか？

A : それで結構です。

【その他】

1 . Q : 申込書一式はホッチキスどめしていいのでしょうか？

A : 選考資料を作成するためホッチキスどめは避けてください。

2 . Q : 申請書一式は両面印刷していいでしょうか？

A : 印刷は片面印刷をお願いします。

以上